

世界で輝く教育に向けて 第3期期間中の金沢大学の教育戦略

平成28年3月18日

教育担当理事(副学長)

柴田正良

(1) 大学院教育の強化

(2) 全学における教育の「厳格な質保証」

- SGU事業採択と重点支援第3類型選択を受け、本学は、教育の高度化と国際化を第一目標に掲げ、それを達成する大きな方策として、
- (1) 大学院教育の強化と
- (2) 全学における教育の「厳格な質保証」に着手する。

エリート大学院生の精鋭部隊を育てる

- 研究大学の基盤としての「優秀な大学院生の育成」を質・量ともに目指し、大学院教育に独自の競争原理を導入する。

大学院教育の強化の具体策

- 先進融合学術研究科(仮称)の設置とエリート大学院生の養成
- 大学院GS奨学金制度の充実
- 博士後期課程DC1、DC2の採択率アップ
- エリート学生／修士学生に対する奨学金・飛び級進学制度
- ▪ 全研究科における複数指導教員体制の確立、等

学生への支援は手厚く、成績評価は厳正に

- 支援の強化は徹底するが、学生・院生を大人扱いする

AP事業に基づくバックアップ・ポリシーの制定

学生バックアップ・センター(仮称)の創設と、4つの部門

(1)高大接続コア部門、(2)学修支援コア部門(KUGSスタディ・ラボ)、(3)ヘルスケア・コア部門、(4)キャリアデザイン・コア部門

- 成績評価を厳格化するための諸方策

- 成績不良者に対する退学勧告システムの全学的導入, 等

とはいえ、SGU事業の 各種の目標達成を忘れずに

- 国際基幹教育院の創設
- 共通教育新カリキュラム（GS科目群）のH28開始
- クォーター制導入と海外活動単位認定プログラムの開発
- **授業科目の英語化**
- 英語のみで卒業できる教育プログラム
- TA, LA, ALA, 高度TAの実効的な配置と活用
- ナンバリング, チューニング, 多次元評価法の実施
- 「文系一括、理系一括」入試の実施
- 高大接続特別入試の開発と実施(GSC申請)

10年後
(H35)

学士課程:50%, 大学院課程:100%

ただし、学士課程の目標値については、全学の平均値です。

- ・ 国家試験等のある学類とそれ以外の学類のそれぞれに可能な方法で英語化を進めます。
- ・ 10年後の目標値です。来年からいきなりこうする、という話ではありません。

英語による授業の定義(文科省) 授業時間90分のうち8割以上を英語で実施、なおかつそれが15回(7.5回)の授業期間のうち8割以上のもの

各学域(学士課程)で今後の工程を検討

(A):外国語による授業科目数 (B):全授業科目数

		H25年度実績	H27年度目標	H28年度目標	H29年度以降
人間社会学域	(A)	56	72	96	
	(B)	1,000	969	969	
	(A/B)%	5.6%	7.4%	9.9%	
理工学域	(A)	5	36	56	
	(B)	632	598	598	
	(A/B)%	0.8%	6.0%	9.4%	
医薬保健学域	(A)	9	21	36	
	(B)	452	452	453	
	(A/B)%	2.0%	4.6%	7.9%	



部局ごとに
目標達成のための
工程表現在検討中

全ての学類・コース(49コース)に「英語による授業」の履修のみで卒業できるプログラムを少なくとも1つ用意

授業の英語化は、「すそ野」を拡げるのが 大事

- 数値目標に過度にこだわって学生の理解をおろそかにすべきではない。
- 「英語化」の実施に際しては、all or nothing ではなく、「授業の英語化」の裾野をできるだけ拡げる。
- いきなり、完全な形で、「授業の英語化」をする必要はない。
- 「英語化マニフェスト2015(教職員篇)」を参考にしてほしい。
- 「英語化のインセンティブ」も活用し、チャレンジしてほしい。

最後に

四高時代以上の誇りと輝きを！